

第3章 色彩について

- I 色彩の景観誘導基準について
- II 景観色彩デザインの基本的な考え方
- III 色彩の検討プロセス
- IV 建築物や工作物の景観色彩デザイン
 - 1.住居系用途地域における色彩
 - 2.商業系用途地域における色彩
 - 3.工業系用途地域における色彩
 - 4.工作物の色彩

I

色彩の景観誘導基準について

吹田市の色彩の景観誘導基準は、マンセル表色系によるマンセル値を採用しています。この表示方法は日本工業規格(JIS)の Z8721「色の表示方法－三属性による表示」に採用されているものです。

色の三属性

■色相/Hue

色合いを示します。

R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、GY(黄緑)、G(緑)、BG(青緑)、B(青)、PB(青紫)、P(紫)、RP(赤紫)の10種類の基本色を記号で表記します。それぞれの色相には1~10の番号がつけられ、5番がその色相の代表色となっています。



■明度/Value

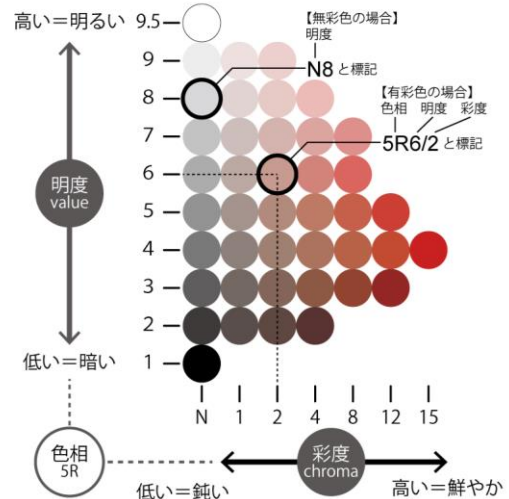
色の明るさを示します。

0 から 10 の数字で表現し、数字が大きくなるほど明るくなります。

10 は理想の白、0 は理想の黒を指します。

現実には完全な白と黒をつくることができないので、色票上では 9.5~1.0 が用いられています。

白~黒の色の並びには色味がありません。このような色を「無彩色(記号 N)」といいます。また色味のある色を「有彩色」といいます。



■彩度/Chroma

色の鮮やかさを示します。


0 から 16 程度までの数字で表現し、数字が大きくなるほど鮮やかになります。最高彩度は色によって限界が異なるため、色相によって最高の数値が異なります。

無彩色の彩度は 0 です。

マンセル表色系による色の表示の仕方(マンセル値)

例えば、色相が 5R、明度が 6、彩度が 2 である色は「5R6/2」と表示し、無彩色の場合は、明度を表す数値の前に「N」をつけて「N8」というように表します。

■マンセル値による色彩の表し方と読み方


 $\frac{5R}{(色相)} \frac{6}{(明度)} / \frac{2}{(彩度)}$
 5アール 6の 2


 $\frac{N}{(無彩色)} \frac{8}{(明度)}$
 エヌ 8

色見本(色票集)

マンセル表色系の数字と記号の組み合わせでは、どのような色なのか一目でわかりにくいいため、色見本(色票集)を併用するのが便利です。

色見本(色票集)には、印刷によるものと塗装色によるものがあります。印刷による色票集は、実際の建築物や工作物の色には再現できない色も含まれるため、建築物等の色指定には、塗装による色見本(色票集)を用いるようにしましょう。



日本塗料工業会発行 塗料用標準色(ポケット版)

▶▶▶ 系統色名と固有色名 マンセル値のほかにも色を伝える言葉があります。

上段:系統色名	→	鮮やかな黄色	あざやかな緑色	くすんだ黄赤
中段:固有色名	→	たんぼぼ色	エメラルドグリーン	パーントシェナ
下段:マンセル値	→	(5Y8/14)	(4G6/8)	(10R4.5/7.5)
固有色名の いわれ	→	たんぼぼの花の色	宝石のエメラルドのよ うな明るく冴えた色	イタリアのシエーナ地方 の土を焼いたような色

ベースカラーとアクセントカラー

ベースカラーとは、その色が占める面積が大きく、全体のイメージとなる色のことです。

アクセントカラーとは小面積を強調する色のことです。明解な色や強い色などを小面積に用い強調することで外観にアクセントが加わり、デザインが引き締まります。アクセントカラーの面積が大きすぎると、引き締め効果がなくなってしまう。目的に合わせて効果的に使いましょう。▶▶▶ P.84 を参照してください。



▶▶▶ 色を決定するときは

「色」の検討や判断するときの光は、「晴天時の北窓からの昼光」が良いとされています。景観色彩の計画段階では、昼光色に近い光であれば特に問題はありませんが、計画が進み、実際に使用する色彩を決定する段階では、色が正しく見える光のもとで判断しましょう。



蛍光灯での見え方



自然光での見え方

色彩の景観誘導基準について

建築物の外壁及び工作物は色彩の景観誘導基準があります。以下の表の基準内で計画する必要があります。なお、重点地区内は別途基準があります。

建築物の外壁及び工作物の色彩基準					
色相		明度	彩度		
R(赤)	2.5 未満	5.0 以上 8.5 以下	3.0 未満		
	2.5～7.5 未満	7.0 以上 8.5 以下	3.0 未満		
		5.0 以上 7.0 未満	5.0 未満		
	7.5 以上	5.0 以上 8.5 以下	5.0 未満		
YR(黄赤)					
Y(黄)	7.5 未満	5.0 以上 8.5 以下	3.0 未満		
	7.5 以上				
GY(黄緑)					
G(緑)					
BG(青緑)					
B(青)					
PB(青紫)					
P(紫)					
RP(赤紫)					
N(無彩色)				5.0 以上 8.5 以下	—

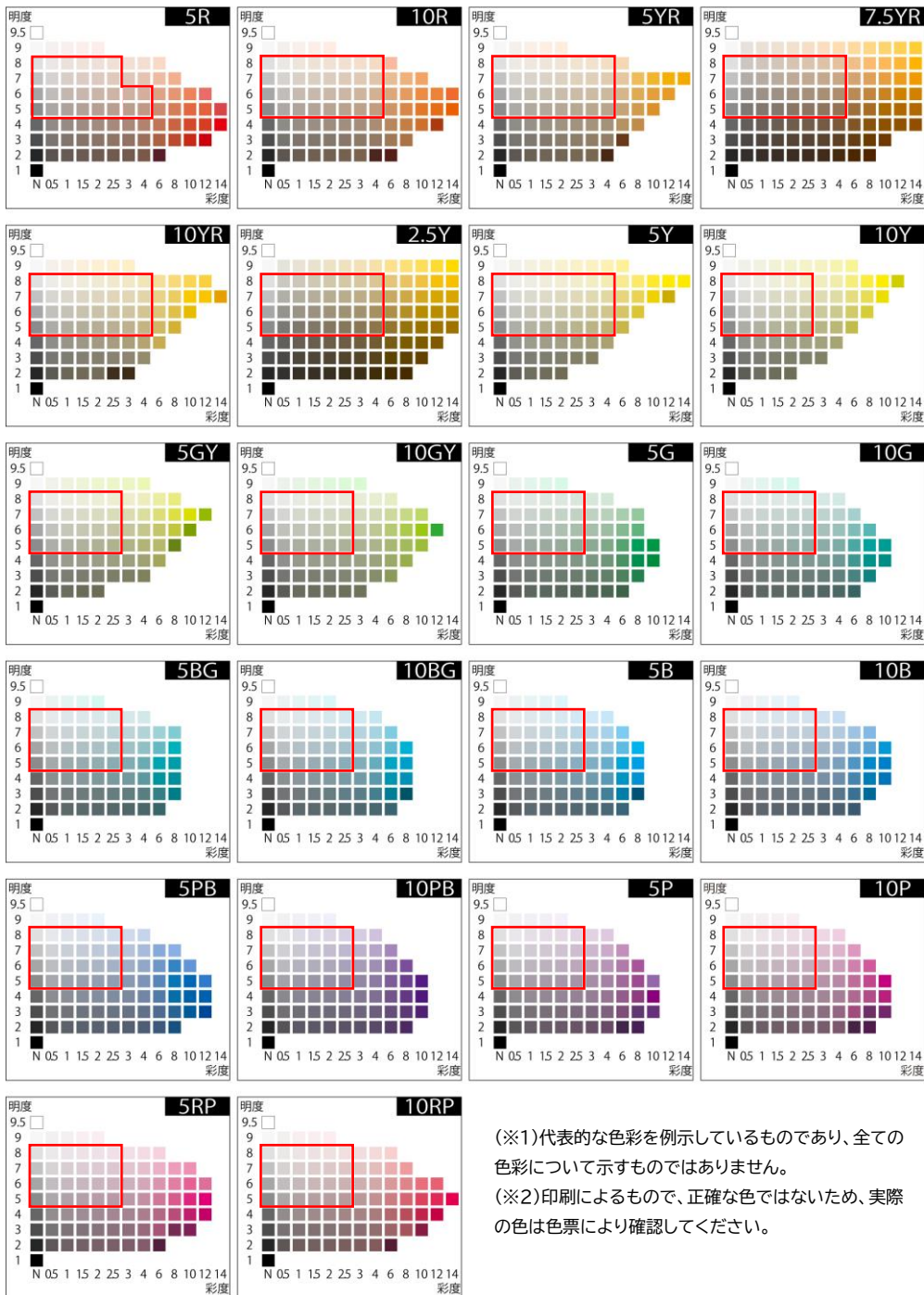
(※)マンセル表色系によるマンセル値

アクセントカラーについて

アクセントカラーには、上記の色彩基準外の色彩を使用できますが、使用可能な面積の基準があります。

外壁のアクセントカラーの基準	
住居系用途地域	各立面の 1/20 以内
商業系用途地域	各立面の 1/10 以内
工業系用途地域	各立面の 1/5 以内

□ : 景観誘導基準



色彩の景観誘導基準の対象外

次のような場合は、色彩基準の対象外とすることができます。

- ・ 着色していない自然素材(木・石・ガラス等)の色
- ・ 市長が特に認めるもの

II

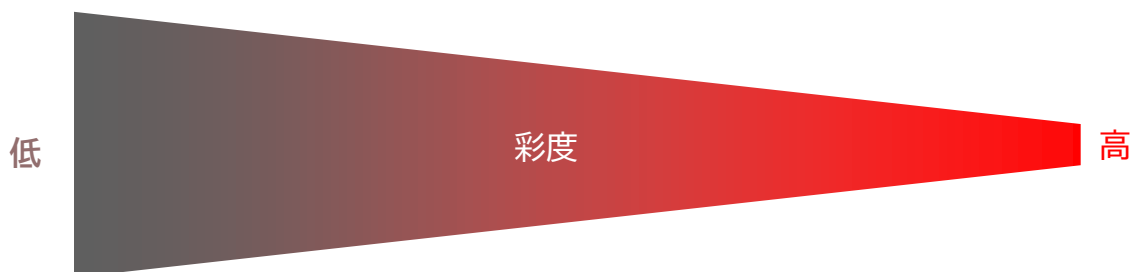
景観色彩デザインの基本的な考え方

目立たせるもの・周囲に馴染ませるもの

目立たせるものは、信号や標識のように公共的な情報伝達を担うもの、祭事の装飾のように一時的な彩りを加える比較的面積が小さなものです。

周囲に馴染ませるものは、道路や建築物、工作物などの一年を通して同じ場所にあるもので、景観の中でも比較的大きな面積を占めるものです。過剰に存在を誇示しないように配慮しましょう。

景観のなかで、目立たせるものと周囲に馴染ませるものの役割分担に配慮し、どちらも引き立つような景観形成を図りましょう。



馴染ませる色

- 不変
- 長期的
- 大面積
- 静的
- ベース

目立たせる色

- 変化
- 一時的
- 小面積
- 動的
- アクセント

道路・橋・歩道橋
建築物の外壁等の中高層部
建築物の屋根 など

モニュメント
建築物等のアクセント
など

公共サイン
信号・交通標識
祭事の色 など



▶▶ 色の面積効果

色は大きさ(面積)によっても見え方が異なります。小さな色見本と、実際の建築物の壁面では、大きな面積の方がより鮮やかに、より明るく感じられるようになり、反対に暗く感じる色は一層暗く感じます。面積の大きい建築物等の色彩を扱うときは、できるだけ大きなサンプルで慎重に確認することが必要です。

まちなみとの調和

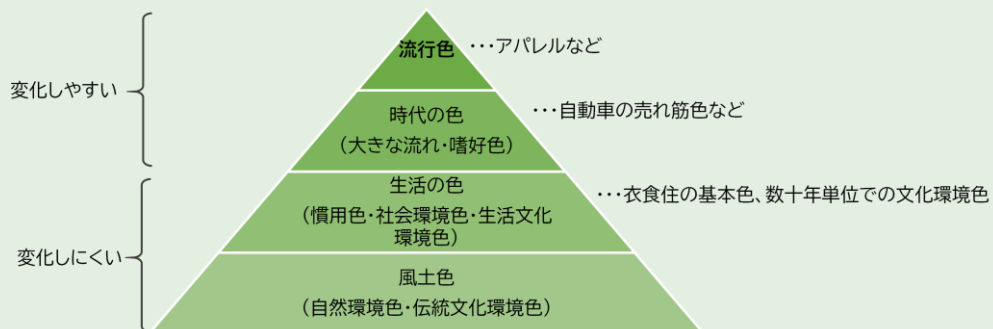
周辺の建築物等と色相や色調をそろえるとまちなみに調和が生まれます。周辺の景観に馴染みやすい落ち着いた色彩を用いましょう。



▶▶▶ 色にまつわる話 「流行色」

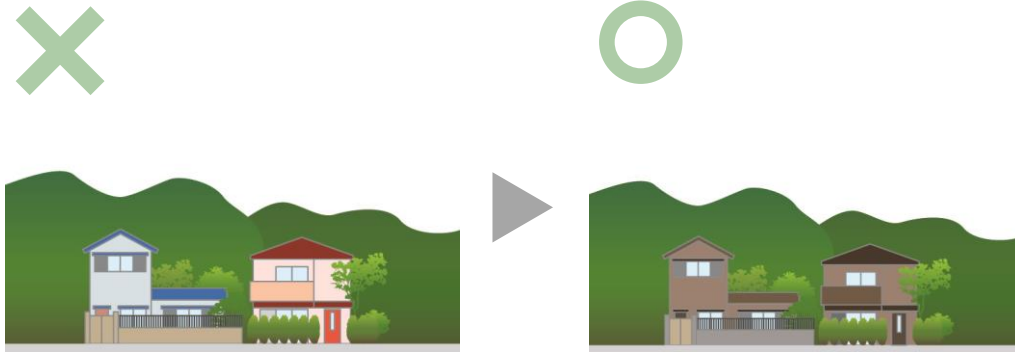
黒が流行る年、白が流行る年など、衣服はもちろんのこと、自動車や家電製品などにも「流行の色」があります。その時代に流行した色やこれから流行すると予測された色などを「流行色」といいます。赤が流行ると予測されれば、赤色の商品開発を進めなくては販売競争に勝てないなど、流行色は産業界に大きな影響を及ぼします。

産業の分野では、その年の流行色をにらんだ商品開発に数年前から取り組み、新たな商品を毎年店頭へと送り出していますが、長い時間をかけてまちなみをつくり上げる景観色彩の分野では、流行に左右されずに計画することが大切です。



自然を引き立てる色

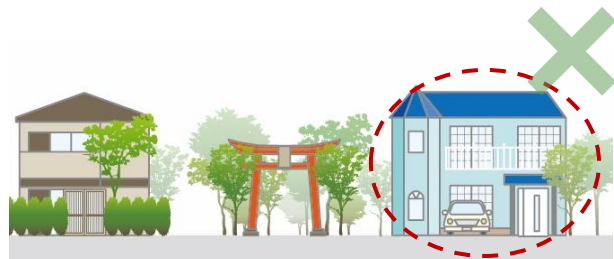
公園、街路樹、生垣などの緑は心に安らぎをもたらし、多くの人が好むものです。
このような自然の緑をまちの重要な要素と捉え、緑が美しく引き立つ色を考えてみるのが大切です。



樹林などの近くでは、背景となる緑が美しく引き立つように、高明度高彩度の色彩を避けましょう

歴史的な景観資源への配慮

建築物や工作物の色彩は、社寺等の色彩や境内林の緑を尊重し、特に落ち着いた色彩を選びましょう。また、土塀、板塀、瓦屋根などの使用や配色等の工夫により歴史的な雰囲気が継承されるよう配慮しましょう。



周囲のまちなみから突出しやすい高明度高彩度色は避けましょう

▶▶▶ 自然素材を使いましょう

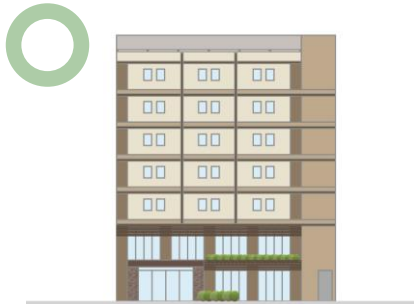
集落の面影が残る地域では、歴史的な趣を大切にしましょう。石・木・土・漆喰・瓦などの自然素材の色は古くから馴染みのあるものです。建替えなどにあたっては、自然素材を活用することを考えましょう。



規模や形態に応じた配色

建築物等の規模を考慮し、圧迫感を和らげるような色彩を基調とするとともに、配色の工夫によって周囲の景観に馴染ませるようにしましょう。

マンション等の長大な壁面を均一の色彩にしてしまうと、圧迫感を感じる場合があります。色彩の使い分けは、低層部と高層部、機能に応じた外観の凹凸、外観とバルコニーなど、建築物等の形態を考慮して行うようにし、形態との相関が低い色分けやイラストなどの絵画的表現を避けるようにしましょう。



形態によって色彩を使い分ける



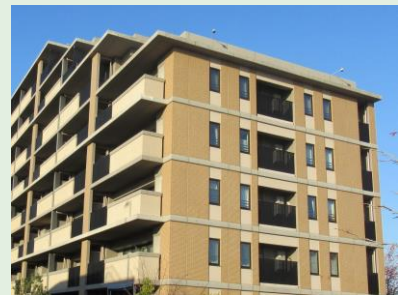
高さによって数段階の色に分ける

▶▶ 配色のポイント

背景が空となる上層部の外壁の色彩は、明度を上げる方が空に溶け込みやすくなります。



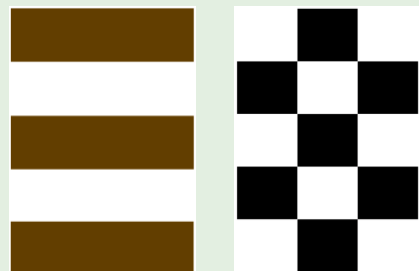
外壁タイルの色彩に合わせて設計する吹付タイルの色彩は、外壁タイルを引き立たせるように、彩度を少し下げることがいいデザインになります。



階段のシャフト壁及び階段スラブの色彩は、個性的な色で主張せず、外壁と色彩を合わせましょう。



白と黒など、明度の差が大きい色彩の組み合わせを用いることは避け、明度差は2以内としましょう。



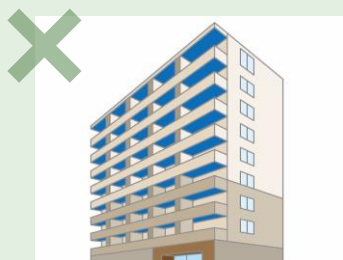
使用する色彩同士の調和への配慮

一つの建築物等に必要以上の色彩を用いないようにし、各部の色彩を同色相でそろえるなど、外観に調和が感じられるよう配色を工夫しましょう。

建築物本体と、それに付随する広告物や前面舗装、設備機器類などの色彩に共通性を持たせ、各要素の色彩に調和が感じられる配色を工夫しましょう。

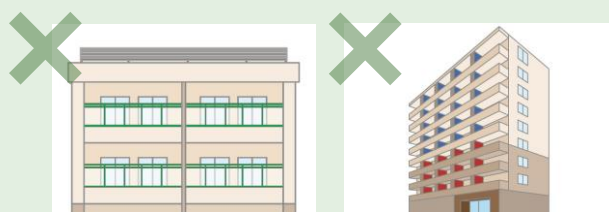
▶▶ 避けたい色彩

軒裏や上裏は歩行者から目につく部分であり、違和感の強い高彩度色や低明度色を用いることは避けましょう。



▶▶ 隔て板や手すりの色彩について

隔て板や手すりに彩度の高い色を使うと、まちなみに影響します。周辺のまちなみや外壁と調和した落ち着いた色彩を選びましょう。



色彩の経年劣化への配慮

■ 耐候性の高い材料を選ぶ

建築物等が長期にわたって外気や雨風にさらされることを踏まえ、経年変化に耐える色彩や材料の選定を行いましょ。

■ 経年変化により表情が変わる自然素材を使用する

経年変化によって表情が変わる木材や石材などの自然素材の積極的な使用を検討しましょう。

使用に際しては、外気との触れ方や日射により、質感や色味が変化していくことを考慮する必要があります。

■ メンテナンスで美観を保つ

退色や汚れにより、周辺に不快感を与えないように適切にメンテナンスを行いましょ。

▶▶ 自然素材とエイジング

一般に木材は経年変化により、色相は黄味寄りになり、明度が上がり、彩度は下がってきます。製材した木材はそこからまた新しい時間の変化を刻み、表情が変わっていきます。

時間の経過によって表情に深みが増すことを「エイジング」といいます。耐久性が高く、汚れのつきにくいタイルなどはエイジングしにくく、木・石などの自然素材は適切に管理を行えば、美しいエイジングを見せる素材です。

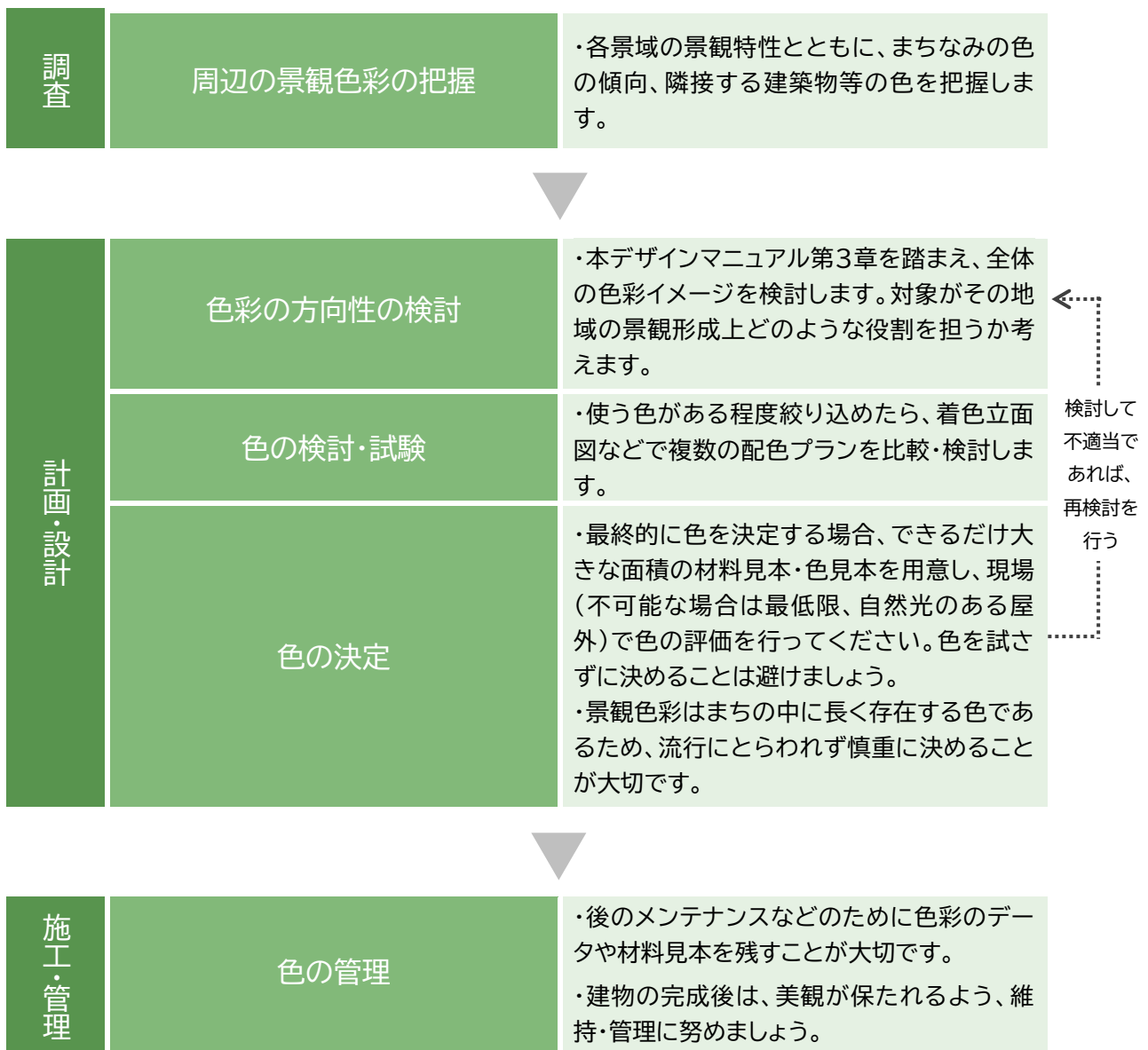
Ⅲ

色彩の検討プロセス

色彩の検討プロセスの例

建築物等は個人や企業の資産ですが、その外観は多くの人の目に触れることから、市民共有の財産とも考えることができます。

建築物等の外壁色を検討する際には、地域の魅力を高めるために、周囲の現況や新しい色彩が及ぼす影響を考慮するなど、慎重なプロセスで取り組み、各プロセスで配慮すべき点を踏まえた質の高い色彩を導き出すことが大切です。



色彩の検討のチェックポイント

色彩の検討のチェックポイントをいくつか紹介します。

■正しい視点場を設定していますか？

景観色彩は視点を置く場所によって見え方が異なります。



①遠景：遠くからまちなみを眺める状態。このレベルでは、小面積の色は大きな面積の部分に溶け込んで見える。



②中景：まちなみの中に入ってから建物などを見る状態。個々の建物などの色が明確に意識でき、ある程度の小面積の色も読み取れる。



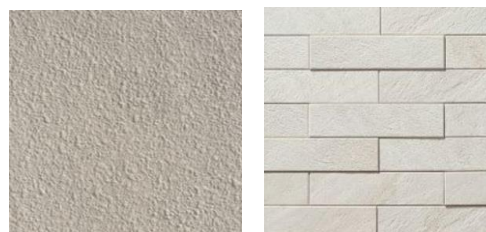
③近景：通りを歩いている時に建物などを見る状態。小さい面積の色も十分に読み取れる。

景観色彩は、基本として中景で見える場所で、周辺との調和などを考慮しながら検討していく必要があります。

■材質と色の組み合わせで考えていますか？

同じ色でも材質や形によって見え方や印象が異なります。

自然界には色紙のようなのっぺりとした色はほとんど存在せず、何らかの質感(テクスチャー)を合わせて持っています。色単体で考えられるのではなく、材料の質感や形などと併せて検討しましょう。

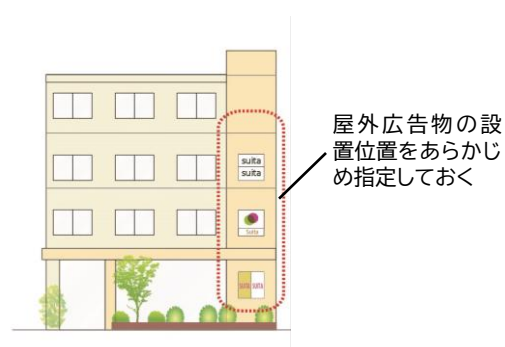


■色を最後に決めていませんか？

建築物や工作物の色彩は後回しにされる傾向があります。積算が済んだ後、残った予算で仕上げ材を決めることも多いようです。色彩は形態や大きさとともに、まちなみに与える影響の大きい要素であることを認識し、できるだけ早い段階から色彩検討を行っておくことが優れた景観デザインの条件です。

■建物が完成した後のルール決めも必要です。

建築物の場合、完成後に予定外の広告物などが設置され、景観色彩だけでなく、建築物のデザインまでも乱してしまう例が見られます。広告物の設置位置などあらかじめ指定しておくなど、ルールづくりが大切です。



IV

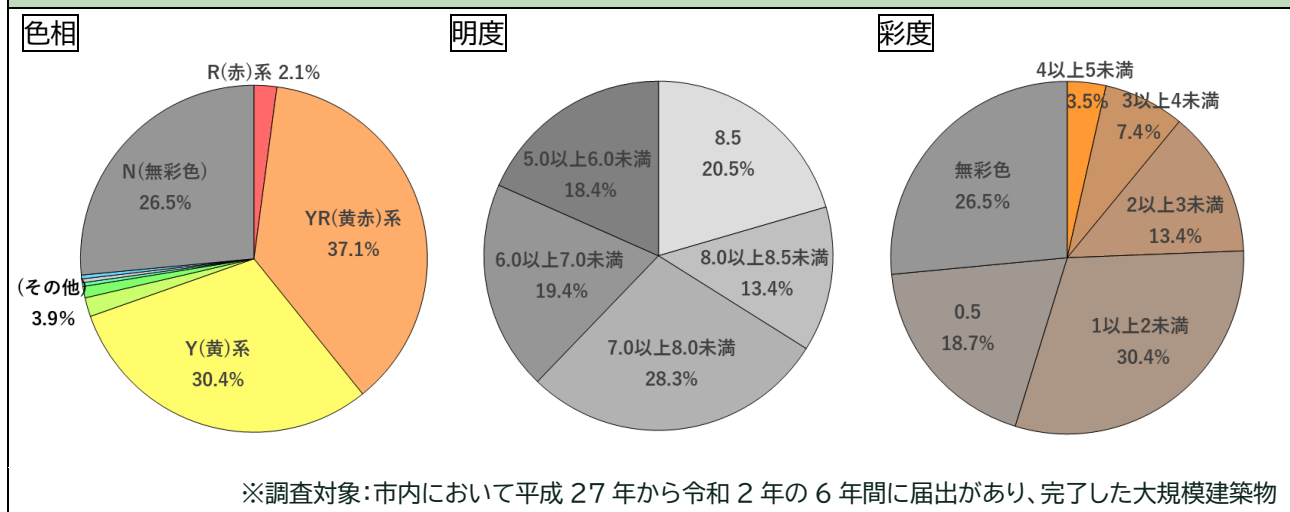
建築物や工作物の景観色彩デザイン

吹田市の色彩

吹田市域の建築物等の色彩は、暖色系や無彩色を基調とし、全体的に派手さを抑えた落ち着いたまちなみとなっており、まとまりが感じられる景観が形成されています。

平成27年から令和2年の6年間に届出があり完了した市内の大規模建築物について、外壁の色彩調査を行いました。色相については、暖色系であるR(赤)系、YR(黄赤)系、Y(黄)系の占める割合が約7割となっています。明度については、明度7以上の割合が約6割となっており、比較的明るい色彩が採用されています。彩度については、彩度2未満の割合が7割を超えており、落ち着いた色彩となっていることがわかります。

建築物の外壁に使われている色彩の割合（大規模建築物外壁色の色彩調査）色彩の数：270



1.住居系用途地域における色彩

対応する用途地域

市内の住居系用途地域の建築物は、暖色系の中・低彩度色がよく見られ、周辺と調和した落ち着いたある景観が形成されています。

- ・第一種低層住居専用地域
- ・第二種低層住居専用地域
- ・第一種中高層住居専用地域
- ・第二種中高層住居専用地域
- ・第一種住居地域
- ・第二種住居地域
- ・準住居地域



景域 12 春日界限

上写真のカラーパレット



同系色の色彩でそろえられたまちなみで、まとまりのある景観を形成しています。敷地の緑が隣地と繋がり、通りの緑が潤いをもたらしています。



景域 1 千里ニュータウン界限

上写真のカラーパレット



暖かみのある色彩の外壁が多く、敷地の緑と調和しています。坂道の下からの石垣の眺めが印象的です。



景域 1 千里ニュータウン界限

上写真のカラーパレット



前面の植栽と高明度低彩度の外壁色が調和しています。



景域 1 千里ニュータウン界限

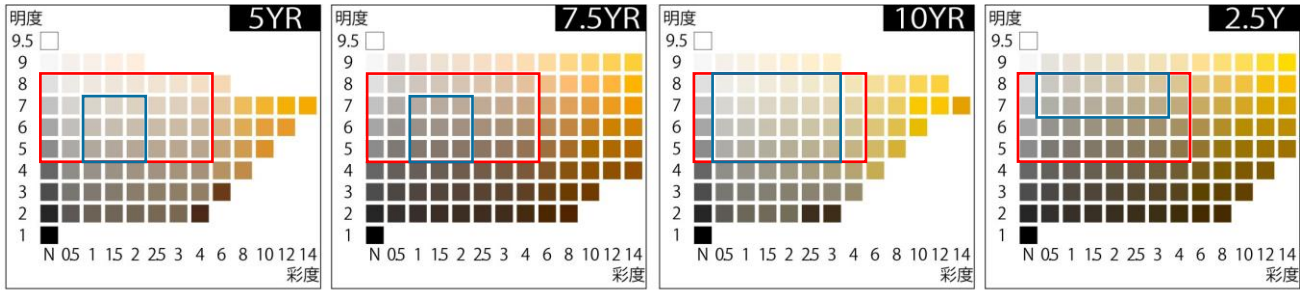
上写真のカラーパレット



Y系の外壁色やバルコニー等の形態意匠の工夫により、圧迫感が低減されています。

色彩の景観誘導基準とまちなみに馴染みやすい外壁の色彩

外壁の色彩を選ぶ際、まちなみから突出しない色彩にすることが大切です。まちなみに馴染みやすい色彩として、5YR、7.5YR、10YR、2.5Yの色相があげられます。



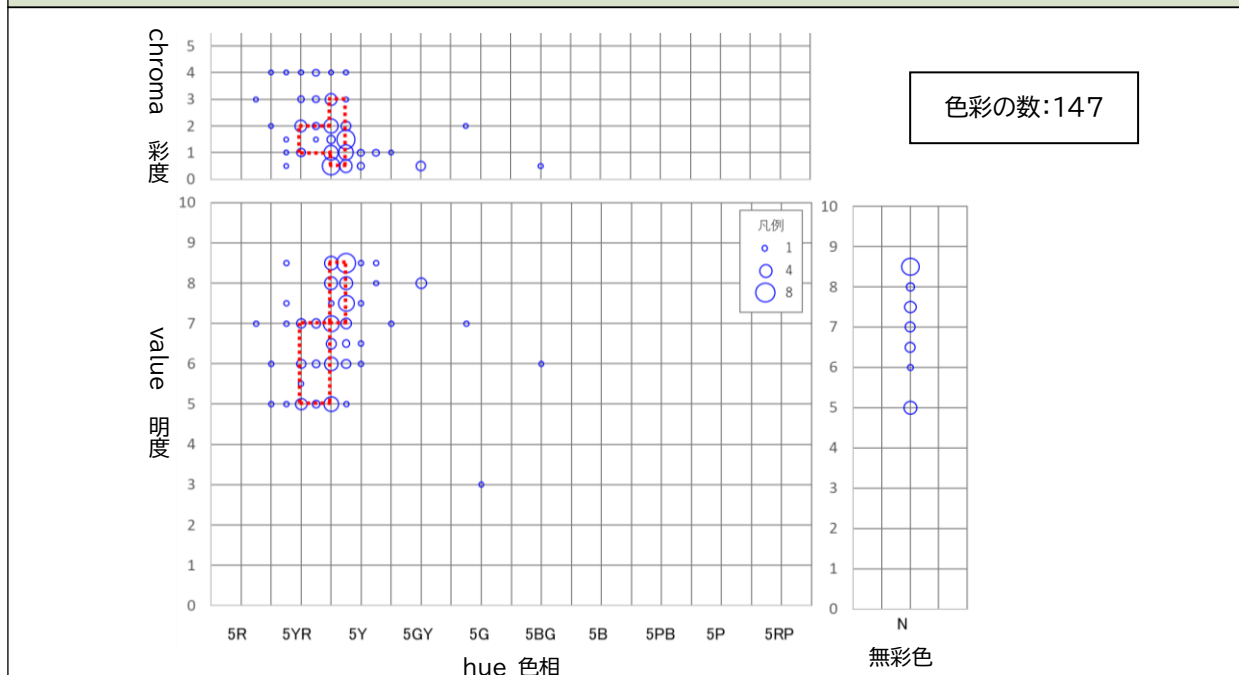
(※)印刷によるもので、正確な色ではないため、実際の色は色票により確認してください。

凡例

■ : 景観誘導基準

■ : まちなみに馴染みやすい色彩

色彩の調査結果(大規模建築物外壁色の色彩調査) — 住居系用途地域



住居系用途地域における配慮事項

上層部は空に馴染むよう
明度を上げる



圧迫感を与えないよう
分節化を行う

積極的な緑化を行う

- ・建築物の色彩は、まちなみの基調となっている YR 系、Y 系の色相を基本とし、落ち着いた低彩度色でまとめましょう。
- ・大規模な建築物は、周辺に圧迫感を与えないよう落ち着いた色彩を用い、長大な壁面が圧迫感を与えないよう分節化しましょう。
- ・庭木の緑は、潤いや安らぎ、季節感を与える重要な資源です。積極的な緑化に努めましょう。

まちなみに馴染みやすい色彩の例

まちなみに馴染みやすい建築物の色彩として代表例をあげています。

■ 外壁色



※上記は、一例です。色彩を決定する際は、III 色彩の検討プロセス(P.91)を参考にしてください。

2.商業系用途地域における色彩

対応する用途地域

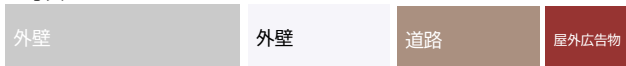
市内の商業系用途地域のまちなみは、鮮やかな色の屋外広告物が目に飛び込んできますが、建築物自体は低彩度色が多くみられ、暖色系の穏やかな色彩や無彩色が基本となっており、活気とにぎわいの中にも落ち着きのある景観が形成されています。

- ・商業地域
- ・近隣商業地域



景域 31 江坂町界隈

上写真のカラーパレット



鮮やかな色の屋外広告物が目に飛び込んできますが、外壁色は無彩色が基本となっています。



景域 24 北部健康医療都市界隈

上写真のカラーパレット



YR系の落ち着いた外壁色で屋外広告物を集約化することにより、にぎわいの中にも落ち着きのある景観が形成されています。



景域 11 南千里駅界隈

上写真のカラーパレット



低層部と中・高層部で明度差を付け、周辺に馴染む色彩となっています。また、屋外広告物は外壁色に調和する色彩で統一されています。



景域 7 山田駅界隈

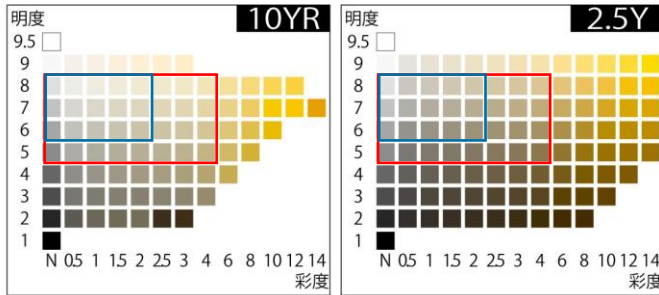
上写真のカラーパレット



暖色系の穏やかな色彩を用いた外壁に集約化された屋外広告物がバランス良く、にぎわいの中にもまとまりのある駅前景観を形成しています。

色彩の景観誘導基準とまちなみに馴染みやすい外壁の色彩

外壁の色彩を選ぶ際、まちなみから突出しない色彩にすることが大切です。まちなみに馴染みやすい色彩として、10YR系、2.5Yの色相があげられます。



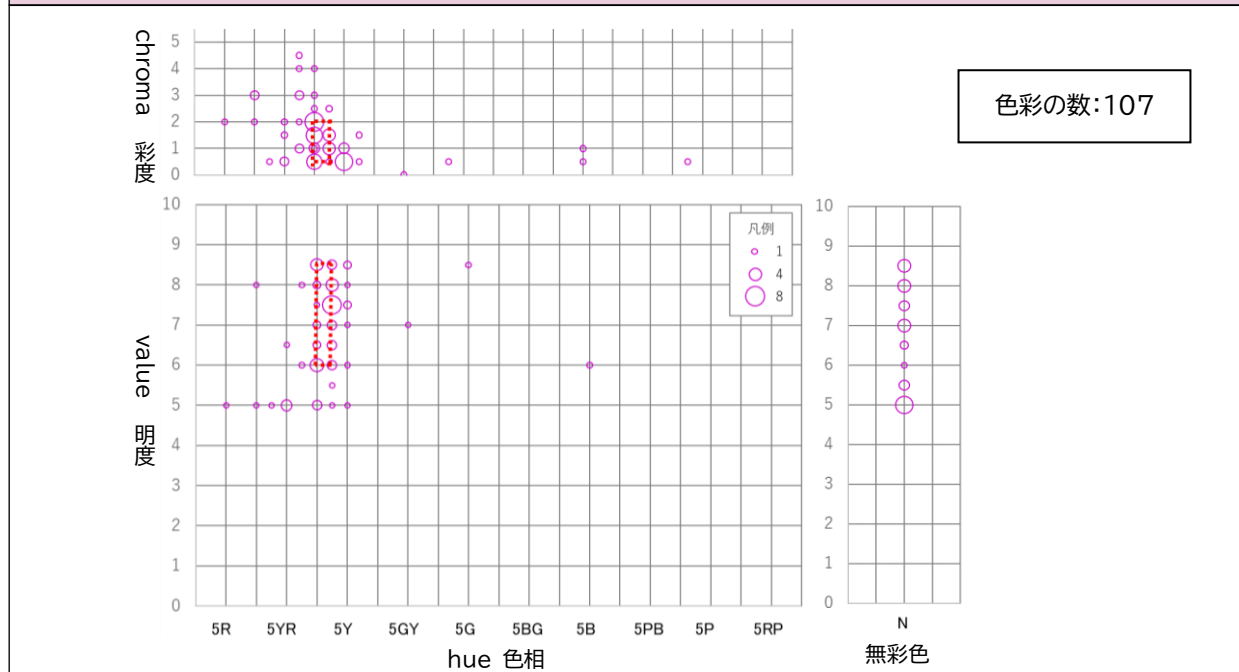
(※)印刷によるもので、正確な色ではないため、実際の色は色票により確認してください。

凡例

■ : 景観誘導基準

■ : まちなみに馴染みやすい色彩

色彩の調査結果(大規模建築物外壁色の色彩調査) — 商業系用途地域



商業系用途地域における配慮事項

外壁はまちなみから突出しない色彩にする



屋外広告物などは低層部に集約する

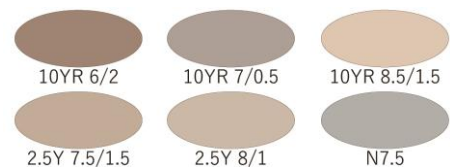
積極的な緑化を行う

- ・建築物の色彩は、個々の店舗の主張ばかりでなく、周辺とのバランスに注意し、まちなみから突出しないようにしましょう。
- ・アクセント色や広告物などのにぎわいを感じさせる要素は、道を歩く人の目につきやすい低層部に集約しましょう。

まちなみに馴染みやすい色彩の例

まちなみに馴染みやすい建築物の色彩として代表例をあげています。

■ 外壁色



※上記は、一例です。色彩を決定する際は、Ⅲ 色彩の検討プロセス(P.91)を参考にしてください。

3.工業系用途地域における色彩

対応する用途地域

市内の工業系用途地域の建築物は、色味の強い色はあまり見られず、背景に溶け込めるような無彩色が多くみられます。

セットバックした建築物の前面には植栽を施し、潤いのある景観が形成されています。

- ・工業地域
- ・準工業地域



景域 6 津雲台 7 丁目界限

上写真のカラーパレット



自動車ディーラーが集積するまちなみですが、無彩色の外壁でまとまりのある景観を形成しています。



景域 40 神崎川沿い(南吹田の工業地)

上写真のカラーパレット



背景の空と馴染む壁面に箱文字の社名ロゴの赤色がアクセントとなっています。



景域 29 吹田貨物ターミナル駅・吹田機関区界限

上写真のカラーパレット



空に馴染む高明度の無彩色とアイレベルにはアースカラーを採用し、まちなみに馴染む色彩を使用しています。敷際には緑を充実させ、潤いある景観を創出しています。



景域 44 東御旅町・西御旅町界限

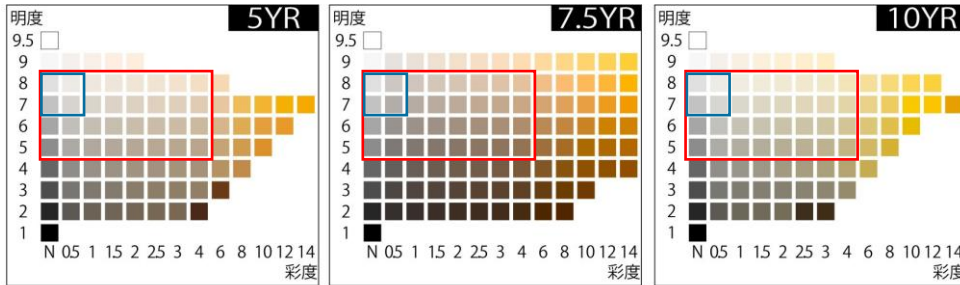
上写真のカラーパレット



高さを抑えた計画と控えめな外壁色とサインが川沿いの景観に配慮されています。

色彩の景観誘導基準とまちなみに馴染みやすい外壁の色彩

外壁の色彩を選ぶ際、まちなみから突出しない色彩にすることが大切です。まちなみに馴染みやすい色彩として、高明度の無彩色があげられます。



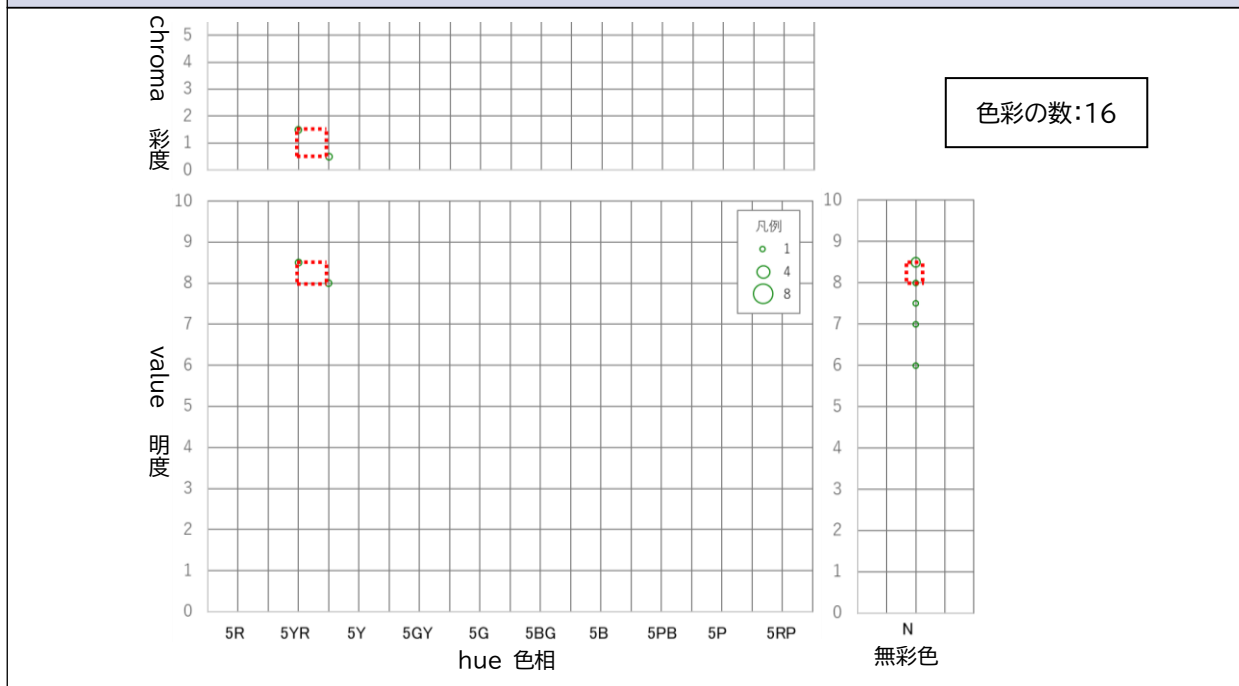
(※)印刷によるもので、正確な色ではないため、実際の色は色票により確認してください。

凡例

■ : 景観誘導基準

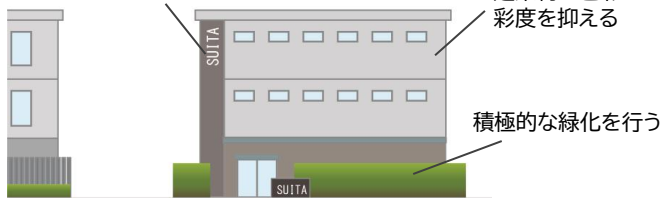
■ : まちなみに馴染みやすい色彩

色彩の調査結果(大規模建築物外壁色の色彩調査) — 工業系用途地域



工業系用途地域における配慮事項

企業サインはワンポイントにする

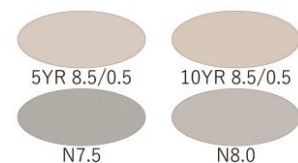


- ・建築物の色彩は、彩度を抑え、アクセントに用いる色はアースカラーを採用するなど、落ち着いた色を使用しましょう。
- ・大壁面の外壁は、雁行させる、色彩により分節させるなどし、圧迫感を低減させましょう。
- ・企業サインなどは建築物等の形態に合わせたワンポイントとしましょう。
- ・敷際はコンクリート等の塀で仕切るのではなく、緑を充実させ、潤いのある景観を創出しましょう。

まちなみに馴染みやすい色彩の例

まちなみに馴染みやすい建築物の色彩として代表例をあげています。

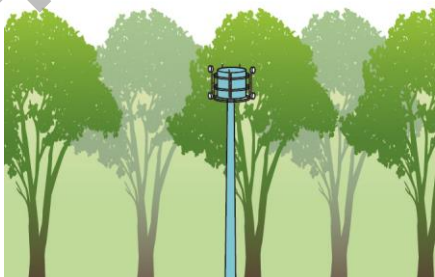
■ 外壁色



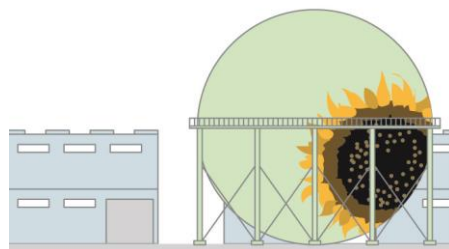
※上記は、一例です。色彩を決定する際は、Ⅲ 色彩の検討プロセス(P.91)を参考にしてください。

4. 工作物の色彩

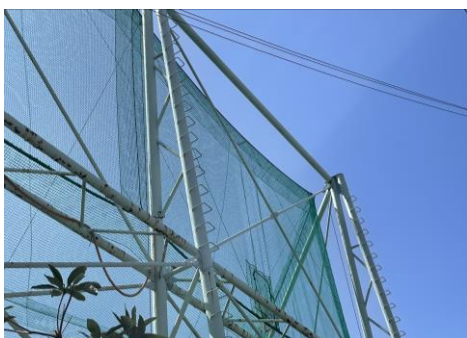
工作物の色彩も建築物と同様に落ち着いた色調を基本に考え、まちなみから突出しないよう配慮が必要です。



高彩度色を使用すると、まちなみから浮いた印象になります



大きな面積にイラストを描くと、親しみやすく感じられるわけではなく、場合によっては陳腐な印象になります



防球ネットは高彩度の色は避け、空が背景となる場合はグレーなどの色彩を選びましょう。また緑が背景となる場合は、茶系の色彩を選ぶなどし、背景に合わせて色を選ぶことが大切です

▶▶▶ 色にまつわるいろんな話「緑色・青色」

空の青、海の青、遠くの山の緑、風にそよぐ木々の緑など、青や緑は多くの人が好む色です。自然界の青や緑は一日の時間の中で、あるいは天気や四季の変化を通じて微妙な変化をしながら、わたしたちの目に映っています。

緑色のネットフェンスや青色のポリバケツなど、人工的につくられた青や緑色をまちの中でよく見かけますが、どれも時間や季節に応じた変化がなく不自然な印象を受けます。人工的につくる青や緑は、まだまだ自然の青色・緑色にかなわないようです。

人工の青や緑色は安易に用いず、十分に検討が必要な色と考えてください。

▶▶▶ 参考となる色彩

国土交通省では、防護柵(ガードレール)等について、景観に馴染みやすい指定色を定めています。これらの指定色は、土や砂の色彩と共通性があり、建築物等に慣用されている 10YR の色相を基本としています。工作物の色彩を計画する際の参考にしてください。

防護柵において基本とする色彩のマンセル値

基本色名称	マンセル値
ダークグレー (濃灰色)	10YR3/0.2
ダークブラウン (こげ茶色)	10YR2/1.0
オフグレー (薄灰色)	5Y7/0.5
グレーベージュ (薄灰茶色)	10YR6/1.0

参考: 景観に配慮した道路附属物等ガイドライン(国土交通省)